



楷

第四十六号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.46

2008
 FEBRUARY

<写真>

十五夜

月季花ノ類ナリ四月花開
 八重ニシテ色赤シ花多ク
 アツマリツク

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

一 目 次

- 図書館の本はおもしろくない（矢部芳郎名誉教授）…………… p. 2
- Read Me! Book.2 「優れた『読み手』の芸に触れる」
 （社会文化科学研究科 竹内真理准教授）…………… p. 4
- 平成 19 年度岡山大学学生と附属図書館長との懇談会について
 （学術情報サービス課）…………… p. 5
- 初めてのブックハンティング体験記
 （社会文化科学研究科博士前期課程 原田貴己）…………… p. 7
- 平成 19 年度池田家文庫絵図展「陸の道」を終えて（参考調査係長 北條充敏） p. 8
- 池田家文庫 岡山後楽園発見ワークショップ（参考調査係 久磨由美子）…………… p. 12
- 電子ジャーナル・バックファイルの導入について（情報管理課電子情報係）…………… p. 14
- マスカット ……………… p. 15
- Web サービスの変更、利用時間延長について、リテラシーテキスト、ほか
- 会議・研修・編集委員会から ……………… p. 18

大学の図書館の本はおもしろくない

矢部 芳郎

私には、学生時代に読んだ大学の図書館（医学）の本で面白いと思ったものの記憶はない。

大学に入って初めての講義の日のことである。先生が入って来て頭の骨の標本をテーブルの上に置くと、いきなり黒板に *Ossa cranium* と書き、続いて骨の各部を指さしながら、その名前をラテン語で書いてゆく。他の学生が一生懸命ノートをとっているの、私もあわててノートを広げて書いていったが、とてもついていけない。途中であきらめて、先生が書いてゆくのを見ながら、残りの時間を過ごした。2時間の講義が終わって、最後に“こういった調子で講義を進めてゆきますから”と先生が出て行ったとき、ほっとしたような、また、あつけにとられたような感じであった。まともにノートも取れていないし、第一何が何やらわからないので、講義後に図書館へ行って本を見ることにした。

図書館に入ってみると、金網があって、その向こうに図書が並んでいる。その中の解剖学の本を見つけて、部屋の片隅にあるボタンを押すと、奥から係の人が出て来たので、本の名前を言って貸してもらった。大きな厚い本で、しかも4冊。講義で聞いた頭蓋骨の他に人体の骨が次々と描かれており、それにすべてラテン語で名前が書いてある。説明というようなものは余りない。骨の次に筋肉、内臓、血管、リンパ管、脳、神経、顕微鏡図。これだけ全部をこれから読んで、聞き慣れない言葉で覚えてゆくのか、とうんざりしながら本を閉じて返却した。

医学生としての生活が始まってしばらくたったある日、友人が面白い本を買ったから読まないかといって一冊の本を貸してくれた。講義の後、その本を図書館の片隅で読んだ。医学校を卒業したばかりの医師が、炭坑町の診療所へ赴任し、頑固だがやさしく誠実な老医師の下で代診を勤めながら、医師として成長し、結婚し、更に都会へ出て成功するが、やがて家庭を捨て、失敗する。そして、若かった日の自分のことを思い出して、新しく出発しようと亡き妻の墓をたずね、その傍らに立って、砦のように湧きたって来る雲を眺めるという物語——クローニンの『城砦』であった。図書館の人に閉館時刻が過ぎてしまっていることを告げられるまで夢中で読んでいた。

解剖学の本は、全く面白くなかったが、医師となるためにはどうしても読んで勉強しなければならぬものであり、無理して読んで勉強したおかげで、私はその後の基礎医学・臨床医学の諸科目を終え、医師国家試験にも合格し、何とか無事に医師となることが出来た。（私自身は、その後基礎医学の道を歩み、結局医師免許を使うことはなかったが。）

クローニンの『城砦』の方は非常に面白かった。そして、最初余り面白く感じられなかった医学の勉強をその後も続けてゆくエネルギーを私に与えてくれたし、また、私が基礎医学を志すことになったことにも、少なからぬ影響を与えてくれたと思う。

私の学生時代は、戦後の焼け跡の時代であり、本屋にある医学の教科書も少なく、たまにあっても高価で手が届かなかった。また、大学の図書館にあるものも、戦前からの古いものばかりであり、数も少なく、読みに行っても他の学生が読んでいて、読めない場合がしばしばあった。勿論、冷房はなかった。暖房といえば石炭を焚くダルマストーブが大きな部屋に1つあるだけであった。それも焚かれていないことが多かった。現在の岡山大学の図書館は、本の種類や数、またその設備においては、私の学生時代とは比較しようもない程充実し、整備されている。したがって、自分にとっ

て読み易いと思われるものを自由に選択しながら、快適な条件下で読むことが可能である。実に良くなったものだと思う。しかし、学生にとって大学の図書館の本は面白くなったであろうか。

大学が専門的な知識の習得の場である限り、そこにある本は、人によって、また読み方やその指導の仕方によって差があるのは当然としても、やはり私達の時代と同じように面白くないのではなかろうか。なぜなら、与えられるだけの学問のための、しかも、ものごとの基礎に関するものという大学図書館の学生用図書の本質は変わらないのだから。そして、必要最小限のものは読んで勉強しなくてはならないということも、全く昔と同じである。学生の方達には、面白くなくても読んで勉強して欲しい。無理やりにも詰め込んで。私がよく思ったように“試験に落ちたら困る！”と、ただひたすらそう思いながらでもよい。また、大学の図書館にも、専門科目に多少とも関係したもので、学生にとって面白く読めるような本が少くらいはあってよいのではないかと思う。

(やべ よしろう 名誉教授)

矢部芳郎先生が附属図書館鹿田分館長でおられた、1988年10月当時のご寄稿文を再活させていただきました。再活のご許可をいただきました矢部先生には、厚く御礼申し上げます。

優れた「読み手」の芸に触れる ～Read Me! Book.2～

竹内 真理

不特定多数の目に触れる読書案内を書くというのは、恥ずかしい作業である。見ず知らずの人に「この本面白いですよ」と薦められるほどの自信はない。しかもこの種の文章は、ちょっとした知人が読んだ場合に、「こういう本を読むとはこいつ案外〇〇だな」（または「やっぱり××だな」という感想を抱かれかねないというおまけがつくので、ますます赤面ものである。そこで、優れた「読み手」である斎藤美奈子に下駄を預けてしまうことで、恥ずかしさを紛らわしてしまおう。

斎藤美奈子は、一般に「児童書等の編集者を経て、雑誌新聞等で活躍する文芸評論家」と紹介される。文芸評論という物々しいけれど、彼女の語り口はあくまで軽妙かつ簡明だ。「ものすごく毒舌だけれども嫌味になりすぎない姐さん」口調とでも言おうか。その口調で、文学作品からタレントの告白本に至るまでをばっさり切り捨ててみせたり、時には原作を憑依させつつおちょくってみせたりするさまは、もはやある種の芸の域に達している（『趣味は読書。』筑摩書房（ちくま文庫）『誤読日記』朝日新聞社など。評論の対象を書物に限らなければ、『物は言いよう』平凡社も）。

このような語り口の「芸」はそれだけで成り立つものではない。それを支える屋台骨の1つに、視点の鋭さ・斬新さが挙げられると思う。たとえば、『モダンガール論』文藝春秋（文春文庫）は、「進歩史観」でも「抑圧史観」でもない「欲望史観」という観点から、社長（＝キャリアウーマン）と社長夫人（＝専業主婦）という2つの「出世」の道を目指して、20世紀の百年間をひた走ってきた「女の子」たちの姿を描き出して、優れた近代史・女性史研究となっている。

もう1つの屋台骨は、文献収集の徹底ぶりである。たとえば、文章の書き方の指南本である文章読本を取り上げて、その業界の百年にわたる抗争を実況解説して見せた『文章読本さん江』筑摩書房（ちくま文庫、文庫版追記あり）では、谷崎潤一郎が大御所による読本はもちろん、初等教育における「綴り方」「作文」の教本が徹底して追及される。また、村上春樹ら8人の80年代の文壇のアイドルについて論じた『文壇アイドル論』文藝春秋（文春文庫）では、いわゆる文芸評論だけでなく週刊誌の揶揄まで取り上げて、これらアイドル達の消費のされ方を、時代の気分と共に描き出している。ここには、作品そのものではなく、作品の消費のされ方を通して時代を読み解こうとする著者独自の視点がある。

さて、このように優れた「読み手」である斎藤美奈子の芸に一貫しているのは、われわれが無意識のうちに正しいと信じ込んでいるものを徹底して疑ってみるという姿勢である。そうやって突き進むことによって、「正しさ」を作り出している社会の構造を明らかにし、さらにその「正しさ」を相対化してとらえることが可能になるのだと思う。もっとも、こうした「読み手」の指摘は時として（特に自分が「正しい」側にいると思っている場合には）少々うざったくもある。にもかかわらず、このような「読み手」の視点の必要を強く感じるエピソードを紹介して、肩の荷を降ろしたい。

『モダンガール論』では、日支事変、太平洋戦争と続いていく戦時下において、進歩的な女性知識人が率先して戦争協力に走ったさまが描かれている（なお彼女らは、戦後は、手の平を返したように戦後民主主義擁護派となる）。どうしてリベラルであるはずの彼女らがそんな行動に出たのか。それは、「インテリ女性は、その時々『新体制』にいち早く反応し、いつも張り切っちゃう（217頁）」のであり、戦争は、その当時は、国民総動員の掛け声の下で女性の社会進出を奨励し、進歩的な女性の「出世欲」をくすぐるトピックに満ちた、まさに「革新的な」出来事だったからである。

（たけうち・まり 社会文化科学研究科准教授）

平成 19 年度岡山大学学生と 附属図書館長との懇談会について

学術情報部学術情報サービス課

学生の意見や要望を直接聞いて図書館の運営に反映しサービスの改善に繋げ、自学自習の場として図書館を十分に利用していただくようにしたいとの意図で始まった学生と館長との懇談会は、今年度3回開催されました。その模様は図書館ホームページに掲載していますので、ここでは懇談会の概略と、学生の皆さんの要望に図書館がどう対応しているかの一部を紹介します。

懇談会ではさまざまな要望のほかに、広報や駐輪その他の問題解決に向けてのご提案もいただきました。ありがとうございました。

第1回 8月1日(水) 10:00~12:00

校友会のサークルに所属する学生12名(内夜間主分局4名)

第2回 11月7日(水) 16:00~17:30

校友会のサークルに所属する学生7名(内夜間主分局4名)

7月に校友会を通じて懇談会への参加を呼びかけたところ、直接参加のほかに多くの部やサークルから要望メモの提出がありました。図書館では、懇談会での発言とメモを合わせて要望をまとめ、できることは実現していく方向で具体的に検討し、その結果をもって、第2回目を開催しました。また、11月14日には、学生が読みたい本を直接書店で選ぶブックハンティングを市内書店で実施しました。

懇談の中で、今年度行ってきたすっきりした掲示や大型ディスプレイを利用した新しい広報の試みにも関わらず、新入生向けオリエンテーションで話す程度のサービス内容や注意事項さえも学生に周知されていないことがわかりました。広報について、学生に知らせたいなら学部掲示板に貼るのが最も効果的だとの提案があり、大きな変化やサービスの改善については学部掲示もしていくことにしました。

第3回 12月12日(水) 16:00~18:15

生協学生委員など15名(内夜間主コース1名)

第3回には図書館を利用して感じたことの発言が多く聞かれました。しかし、書庫の本はすぐには利用できないとの誤解から請求を諦めたことや、本で探したが求めるものがなく後日調べたらデータベースにあったなど、困ったその時にカウンターに相談すれば早く解決できたはずのこともありました。学生が質問しやすいカウンターにする、自立的な図書館利用を進めるために聞かなくてもわかる案内・掲示・リーフレットを用意する、時期に合わせた参加しやすい各種講習会を準備するなど、図書館側のより一層の工夫が求められています。

常に話題の一つとして図書館がとりあげ学生の意見を聞いていたことに駐輪問題があります。図書館前の道路上はいうまでもなく、試験期には玄関アプローチの内側にまで、二重三重に自転車

雑然と置かれている状態です。緊急車両の通行不安など安全上問題となりますし、大学のシンボルとしての図書館の美観を損ねることにもなっています。自転車で来館している学生の発言を要約すると、学内の移動に自転車は欠かせないのでわかりやすい場所に十分な広さの駐輪場を設けてほしい、ということになりますが、キャンパス計画では図書館前への駐輪場設置はできません。12月から年度末まで時計塔の耐震修復工事とそれに合わせた図書館本館部分化粧タイルの張り替え工事があり、付近の通行制限が始まり従来の駐輪場も使えなくなりました。現在は、少し遠くなりますが、図書館北のテニスコートを臨時的駐輪場として整備し、駐輪を案内しているところです。

要望と対応状況（一部）

項目	2007年7月現在	2008年1月までの対応状況
開館時間の延長	平日 8:40～22:00 土・日 10:00～17:00 (休業期は平日9:00～17:00 土・日は休館)	平成20年度から、平日は23時までの開館を予定している。
個室等の 利用時間の延長	平日 9:00～20:00 土・日 閉鎖 (休業期は平日10:00～17:00)	平成19年12月から、平日は21時まで、土・日も16時まで利用可能とした。
冷房	冷房中は室温が28℃より上がらないようにしているが、キャンパス全体で運転調整をしているため冷房停止の時間帯があり、その時間帯には室温が上がる。	平成20年度から、図書館を運転調整ローテーションから除くことで調整している。
読みたい本が 少ない、古い	学生用図書的大部分はシラバス掲載や先生の推薦による。一部は図書館職員WGで選定し、学生からのリクエストも受け付けている。学習書が中心となる。	ブックハンティングを実施し、127冊を購入した。今後も年1回程度の実施を考えている。
電源・情報 コンセント設置、 無線LANの利用	ノートPCを持参して単体で使用することは認めている。	平成19年度末までに、図書館内にフレッツサービスの機器が設置される。
パソコンの 出力用紙	図書館では紙を置いていない。コピー機のトレイから紙が抜かれたり、置いてある申請書を持っていかれて困っている。	図書館で準備する予定はない。ノート・レポート用紙や筆記具と同じに考えて、出力用紙を持参していただくようにしている。

初めてのブックハンティング体験記

原 田 貴 己

「ブックハンティングって何？なんか面白そう」
単純な好奇心から、2007年11月14日に行われた
ブックハンティングの参加者になりました。

「ブックハンティング」とは、学生が実際に書店
に出向き、店頭に並べられた図書を手に取りな
がら図書館で受け入れる図書を選定することです。
学生の声蔵書構成に反映させたいという図書館
側の意向によるもので、今回は岡山大学では初め
て、岡山県内でも初めての試みなのだそうです。



ブックハンティング当日の様子

もちろん以前から「購入希望」の依頼を通じて学

生が希望する図書を蔵書にしてもらうシステムはありましたが、学生自身が直接、しかも実際に図
書を手にとりながら選定できるというのは画期的だと思います。参加者は私を含め学生6人でした。

当日、図書館職員の方の引率の下、岡山市中心部の大型書店（紀伊國屋書店クレド岡山店）へ伺
いました。そこで行うことは店頭にて自分が蔵書にしたいと思う図書のバーコードをハンディ型の
バーコードリーダーで読み取っていくことです。すでに蔵書にある図書以外は、基本的には図書館
で購入されるとのこと。一人あたりの予算は決まっていたので、何でも蔵書にすることはできず、
どれにするべきかと悩むところはありませんでしたが、「こんなに楽しんでよいのだろうか」と思ってしま
うくらい、楽しく悩ませていただきました。

初めての試みということで話題性があつたようで、新聞社やテレビ局の方が何社も取材に来られ
ていました。学生代表として来ているというプレッシャーとともに、ニュースで使われるかも...と
いう緊張感から、カメラやマイクを向けられた時には動きはぎこちなく、手は小刻みに震え、声は
うわずり...、となっていました。しかし、取材を受ける機会などそうあるわけではないので、
貴重な体験をさせていただいたように思います。

インタビューでは「どういった本を選ぼうと思っているのですか」とよく聞かれました。私は来
るべき就職や、社会人学生の方のためにと思ってビジネス書を主に選定しましたが、他の参加者は
サークル活動で使えそうなスポーツの本や、話題の文芸書などだったようで、本当に学生の視点な
らでは、と思えるような本が選ばれたのではないかと思います。

さて、無事書店での作業は終わりましたが、やはり気になるのは自分たちが選定した本の利用状況
です。他の学生から見向きもされず書架の隅でホコリをかぶっていたら...という心配もでしたが、
蓋を開けてみると大好評のようで、蔵書になったと同時に多くが貸し出されたと聞きました。選定
した者として嬉しい限りです。他の蔵書同様、有意義に利用されればと思います。

今回の試みが好評であれば、また実施される可能性があるとも聞いています。一人の学生として、
このような機会がまた設けられ、図書館活動を学生も含めてみんなで盛り上げていく雰囲気を作る
ことができればと願ってやみません。

(はらだ・たかみ 社会文化科学研究科博士前期課程2回生)

平成19年度池田家文庫絵図展「陸の道」を終えて

北 條 充 敏

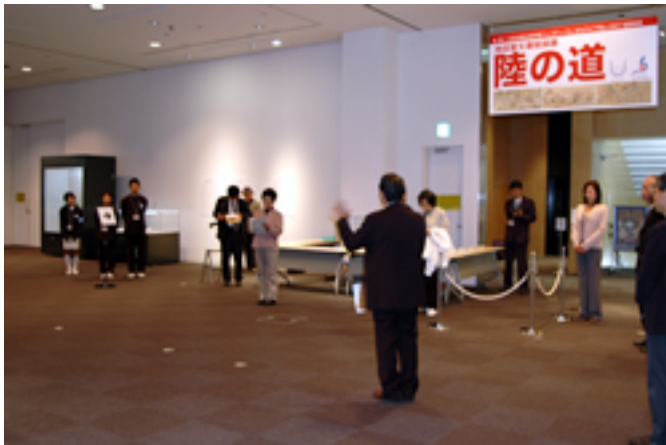
岡山大学附属図書館が開催する池田家文庫絵図展も、平成19年度開催分で11回を迎えました。平成19年度の絵図展は、岡山市デジタルミュージアムとの共同開催としては、3回目となります。会期は、平成19年11月16日（金）～12月2日（日）とこれまでよりは会期を長くして、岡山市デジタルミュージアムで開催しました。今年度は、江戸時代の陸上交通をテーマとして、「陸の道」という題目で企画・展示を行いました。展示会の内容は、岡山大学文学部部長の倉地克直先生（日本史・教授）による監修のもと、岡山大学附属図書館と岡山市デジタルミュージアムがそれぞれの得意分野を出し合って展示会を組み立てました。具体的な役割分担としては、岡山大学附属図書館はポスター（図1）や展示会パンフレット（図2）、展示パネル史料の作成を担当し、実際の会場設営や広報は岡山市デジタルミュージアムが主に担当する方式で進めました。広報は、岡山市を通じて市報、市内小中学校や公民館に行ったほか、新聞・雑誌やFM放送を通じて行ないました。役割分担をすることで、短期間で少人数でも効率よく展示会の準備を行なうことが出来ました。



(図1) 池田家文庫絵図展「陸の道」ポスター



(図2) 池田家文庫絵図展「陸の道」パンフレット

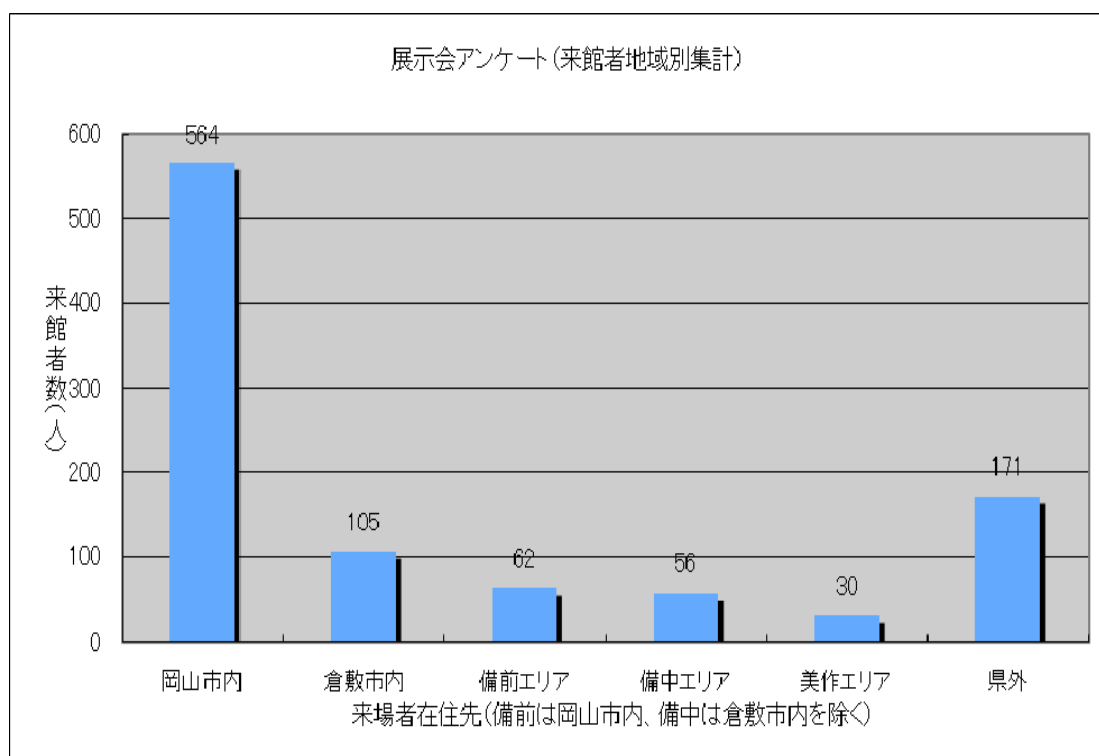


(写真1)
絵図展「陸の道」ギャラリートーク
および記念講演会場写真

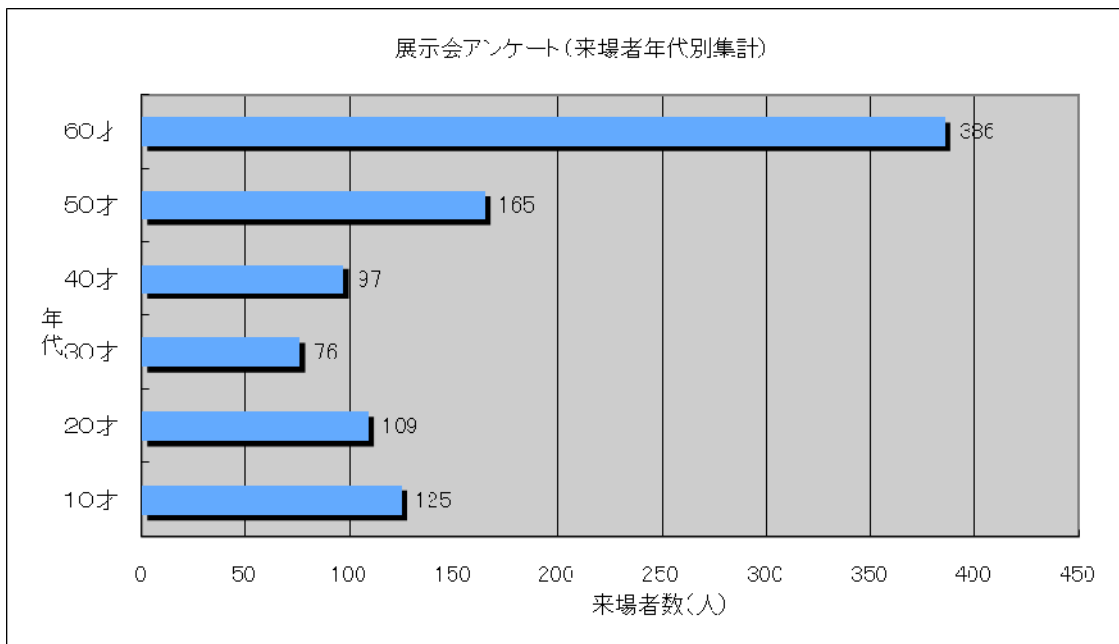
「陸の道」の展示内容としては、「江戸時代の交通」「宿駅伝馬制」「岡山の街道」「岡山藩の参勤交替」の4つのサブテーマを作り、それぞれのテーマに関する池田家文庫資料を展示しました。「江戸時代の交通」では各国をつなぐ江戸を中心とした街道筋道をテーマとして、東海道や中山道などの五街道を描いた絵図を展示しました。「宿駅伝馬制」や「岡山の街道」では江戸時代の交通システムを中心に解説を行ない、岡山の街道筋における人馬賃銭に関する文書資料を展示しました。最後の「岡山藩の参勤交替」では岡山藩の参勤交替の行列次第や往来のルートを書した留方による記録資料とともに、文化五年・六年の参勤交替往来の通過ルートを日本地図にマッピングしたパネルを展示しました。当時、岡山から江戸への往路は東海道を通り、帰路の江戸から岡山へは中山道を使ったことや、時代とともに行列次第が変化しました。今回の展示会では、これまでとは異なり文書資料を多く展示しました。絵図資料では、これまでは複製展示してきた寛永15年(1638)頃に描かれたとされる「備中国絵図」(T1-30)について現物展示したほか、なかでも「東西道中之絵図(江戸時代後期 T8-126)」は、絹布貼付表紙の豪華な装幀で、江戸から肥前五島までが描かれた

折本であり、今回の展示会の一番の注目を浴びた資料となりました。この絵図には、江戸から大坂までの陸路と、大坂から長崎までの海路が描かれ、街道には武者行列や旅人の様子、海路には帆船や島々の風景が巧みに表現されています。また名所や宿駅名が書かれて全体を絵画調に描いています。展示会では、この絵図の江戸（現在の東京）から備中（現在の岡山西南部）までの区間約12メートルを広げて展示しました。展示会のほか、11月23日（祝日・勤労感謝の日）には、岡山県立記録資料館長の在間宣久氏による「江戸時代の陸上交通」の演題で記念講演会を開催いたしました（写真1）。

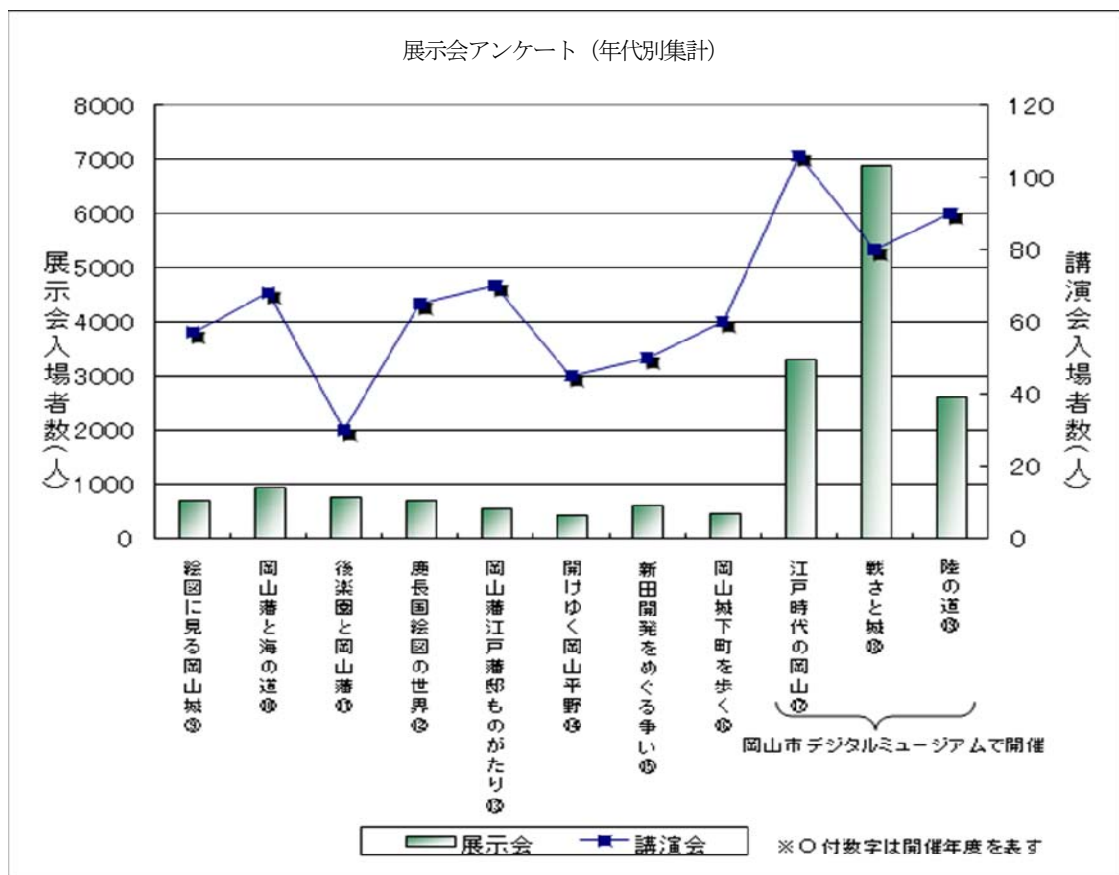
展示会には2,586名（一般入場2,048名、団体入場533名）のご来場があったほか、記念講演会には定員80名を越える近世歴史ファンの参加がありました。アンケートへの回答率は48.2%で、988名からご回答を得ました。アンケートから見た分析結果を見ると、地域別（グラフ1）では岡山市と倉敷市からのご来場者が圧倒的であり、年代別（グラフ2）では小中学生と60歳以上の高齢の方のご来場が多くありました。これまでのご来場者の推移（グラフ3）を比較すると、岡山市デジタルミュージアムで開催するようになり数千人レベルのご来場をいただけるように成長したことがわかりました。この結果を踏まえて、平成20年度の展示会では、より多くのご来場者をいただけるよう手法の変えるべき点は改善して、人々に感動を与えることのできる展示会を目指していきたいと思います。



(グラフ1) 絵図展「陸の道」来場者住在先別比較グラフ



(グラフ2) 絵図展「陸の道」来場者年代別比較グラフ



(グラフ3) 展示会および講演会入場者数年度別比較グラフ(平成9~19年度)

http://www.lib.okayama-u.ac.jp/news/h_2007_12_07b.htm

(ほうじょう・みつとし 参考調査係長)

池田家文庫 岡山後楽園発見ワークショップ

久磨 由美子

前々号(44号)から続く「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」についてお話をします。前々号から続く...などと言われても、知りません、という方のために軽く概要について触れたいと思います。

このワークショップは、岡山大学が所蔵する池田家文庫(江戸時代に岡山藩を治めていた池田家が約240年間に蓄積した岡山藩政史料と、元池田侯爵家収蔵の図書類で、昭和25年に岡山大学へ委譲された資料の総称)の中から、文久3(1863)年に作成された後楽園を写した絵図(顔料が乗せられた美しい絵図です)の拡大複製を作り、その複製絵図の上でじっくりと観察した後、後楽園内を散策しながら今と昔の違いや、変わらないものを探してみましようというものです。これは、岡山大学の所蔵資料を広く地域の方々にも利用していただくという地域貢献活動の1つでもあります。

さて、今回で3回目になるこのワークショップ。今までで最大のお申し込みをいただきました。実施スタッフの許容量を超えると収拾がつかなくなるということもあり、大変申し訳ないことに何名かお断り申し上げました。まだまだ続いて開催予定ですので、また次にお申し込みいただけたらと思います。

開催当日の12月9日(日)は寒すぎるというほどでもなく、穏やかな天候に恵まれました。朝早くから集まって準備をしてくださったのは、共催している本学教育学部の学生さんたちです。着々と準備を進めていると、参加者の親子連れの方々が早々に到着し始めました。準備と受付に追われながらも、定刻の10時には教育学部の山口健二先生のあいさつで幕は開きました。参加者は総勢71名(同伴者含)。広い鶴鳴館が狭く見えるほどです。



ここからのメインは、学生さんたちと子どもたちです。鶴鳴館内での本ワークショップで行う内容の説明から、注意事項の指示や子どもたちとのコミュニケーション等、一切を学生主体で行っていただきました。複数ヶ所あるチェックポイントを回りますが、そのルート決めも学生と子どもたちとの話し合いで決めたようです。参加者を8つの班に分け、いざ園内散策へ、という頃には子どもたちも楽しそうに園内へ飛び出して行きました。

じっくりと1時間園内を散策したら、鶴鳴館へ帰って何を見つけたかをみんなに教えてあげます。

昔と違うところ、変わらない場所や建物、知らなかった歴史など、子どもたちはたくさんの事を学んでくれたことだろうと思います。もちろん、学生さんたちも子どもたちとの触れ合いから、きっと大切な何かを学んだことと思います。同伴の親御さんたちからも概ね好評をいただき、学生さんたちには感謝感謝です。



個人的に感心したのは、学生さんたちがチェックポイント以外の建物の歴史やいわれなどを事前に調べて、子どもたちに説明できるように準備していたことです。必要だと思ったことは指示されなくても自発的に準備する、という当たり前ではありますが大切な姿勢だと思いました。

最後に、共催いただいた本学教育学部の山口健二先生、赤木里香子先生を始め、スタッフとして参加して下さったたくさんの学生さんたちに心より感謝いたします。ありがとうございました。

(くま・ゆみこ 参考調査係)

電子ジャーナル・バックファイルの導入について

情報管理課電子情報係

附属図書館では、2007年11月に世界最大の学術出版社であるエルゼビア社の電子ジャーナルについて、17分野・延べ1,215タイトルのバックファイルを導入しました。3月の導入分とあわせて、同社のほとんどの電子ジャーナルの、初号から最新号までの閲覧が可能です。

他の電子ジャーナルと同様に、附属図書館ホームページ(<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>)からご利用いただけます。すでに導入済みのシュプリンガー社、オックスフォード大学出版局、アメリカ化学会、アメリカ物理学会の電子ジャーナル・バックファイルとあわせて研究活動にご活用ください。

データベース Data Base

論文データベース データベース

学術成果リポジトリ
学術論文をデータベースに登録
OU-DIR

電子ジャーナル
電子書籍の検索・閲覧
世界のデータベースにアクセス

附属図書館 HP トップ

岡山大電子ジャーナルリスト (e Journal List)

ジャーナルタイトルを入力して、検索

ScienceDirect - The Lancet, Volume 1, Issue 1, Pages 1-36 (5 October 1823)

THE LANCET

Copyright © 2008 Elsevier Ltd. All rights reserved

Shortcut URL to this page: <http://www.sciencedirect.com/science/journal/01406736>

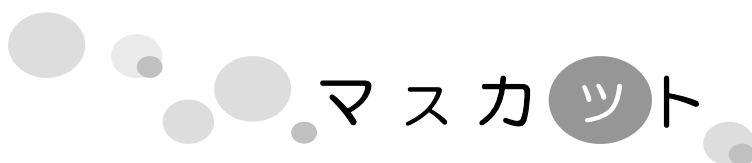
Volume 1, Issue 1, Pages 1-36 (5 October 1823)

Article List Full Abstracts

1. PREFACE. Pages 1-2

2. SURGICAL LECTURES. Pages 3-10

ご利用についてのお問い合わせは、情報管理課電子情報係（内線：7315 または 7320）へどうぞ。



マスカット

蔵書検索システムと Web サービスの変更について

平成 19 年 12 月の図書システム更新にもない、蔵書検索システム (OPAC) と Web サービス (文献複写依頼、文献貸借依頼、貸出状況照会) に変更が生じました。おもな変更点は以下のとおりです。

- インターフェースが変わりました。

OPAC で使用できる検索条件の配置にも若干変更があります。

- NACSIS Webcat (全国の大学図書館による総合目録) の検索が可能になりました。

詳細検索画面の対象データベースで「NACSIS 目録」を選択することにより、本学目録と同じキーワード等での検索が可能となりました。

- URL が変わりました。

新しい URL は以下のとおりです。お手元の WWW ブラウザのブックマークの設定変更をお願いします。

- ・簡易検索 : <http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do?mode=simp>
- ・詳細検索 : <http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do?mode=comp>
- ・文献複写依頼 : <http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/copy/request/input.do>
- ・文献貸借依頼 : <http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/rent/request/input.do>
- ・貸出状況照会 : <http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/portal/portal.do>
- ・Web サービスパスワード変更 : <http://webcat.lib.okayama-u.ac.jp/mylimedio/password/input.do>

利用者の皆様の利便性向上のため、今後も OPAC 等の改良について検討を続ける予定です。

データベース講習会報告

下記のとおり開催し、多数の学生、教職員の方にご参加いただきました。

地区	講習会名称	開催月日	開催回数	参加人数
津島	SciFinder Scholar	10月30日(火)	2回	24名
	Web of Science	11月2日(金)	1回	63名
	Lexis.com	11月6日(月)	1回	2名
	ScienceDirect	11月9日(金)	2回	20名
	LEX/DB インターネット	11月12日(月)	1回	6名
	Web of Science (English Course)	1月24日(木)	1回	13名
鹿田	Web of Science	11月2日(金)	1回	8名
	ScienceDirect	11月9日(金)	1回	11名
	医中誌 Web	11月16日(金)	1回	29名
合計			11回	176名

開館時間および施設の利用時間の延長について

附属図書館中央館では、利用者の皆様の要望を取り入れ、昨年12月から研究個室、学習個室、グループ学習室の利用時間を延長し、平日は21時まで（休業期間は17時まで）、土日は16時まで利用できるようになりました。またAV演習室の教育用パソコンも開館時間中は、同室での授業時間を除いたすべてで利用できるようになりました。

また試験期など利用の多い期間には、本館3階の演習室、新館4階の共同研究室等を開放して、同室での授業時間以外は自由に使っていただけるようにしています。

なお、4月からは開館時間の延長を予定しています。下記の表のとおりですが、詳しくは図書館備付あるいはホームページ掲載予定の開館予定表をご覧ください。

	平成20年4月以降の変更部分	
	開館時間	個室等の利用時間
授業期間中の平日	8時40分～23時（1時間延長）	9時から22時まで（1時間延長）
授業期間中の土日	10時～18時（1時間延長）	10時から17時まで（1時間延長）
休業期間中の平日	9時～19時（2時間延長）	9時から18時まで（1時間延長）
	（ただし休業期間中の延長については期間限定*）	
休業期間中の土日	休館	

*平成20年度は下記の期間を予定しています。

4月1日～7日、8月1日～8日、9月1日～30日、12月25日、2月12日～3月13日

学術情報リテラシーテキスト

「学術情報の基礎知識—岡大生の学術情報活用能力向上を目指して—」の発刊

附属図書館は、主に学生を対象として、岡山大学がサービスする学術情報の利用活性化を図るため、平成20年度から学術情報リテラシー活動の充実を図ります。その一環として、学術情報リテラシーテキスト「学術情報の基礎知識—岡大生の学術情報活用能力向上を目指して—」（附属図書館・情報基盤センター発行 全140頁）を作成しました。本テキストは、平成20年度学部および大学院新入生に配布して、図書館利用と学術情報アクセスのノウハウやマナーの向上を図ります。また、図書館利用と電子情報アクセスの利用に焦点をあてて、図書館資料の蔵書検索やデータベース・電子ジャーナルへの利用について講習会開催を充実させ、かつ英語やインターネットを活用した講習会など多様性を持たせた講習会を企画します。



教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

〈中央館〉※教員業績コーナー（本館1階）に配架

安藤美華代 [教育学部]

中学生における問題行動の要因と心理教育的介入——風間書房, 2007 (371.42/A)

心の健康教室"サクセスフル・セルフ"実践プラン：小学生の問題行動・いじめを予防する！
——明治図書出版, 2008 (375.2/A)

泉谷淑夫 [教育学部]

楽園の寓話（泉谷淑夫作品集）——エルテ出版, 1999 (723.1/I)

羊の惑星（泉谷淑夫作品集）——エルテ出版, 2007 (723.1/I)

太田仁樹 [大学院社会文化科学研究科]

諸民族の自決権（訳）（岡山大学経済学研究叢書 第34冊）——岡山大学経済学部, 2007
(361.834/R)

笠井八重子 [名誉教授]

「鋏」談義よもやま: おいしさの追及、知恵と「技(わざ)」——笠井八重子, 2007(596/K)

作田 誠 [大学院自然科学研究科]

素粒子物理学の発展：未解決問題への多彩なアプローチ（執筆者）
（別冊数理科学 2007年10月）——サイエンス社, 2007 (429.6/S)

高橋祐介 [大学院法務研究科]

新しい法人税法（執筆者）（京都大学大学院法学研究科 COE 研究叢書）
——有斐閣, 2007 (345.35/A)

松尾展成 [名誉教授]

日本=ザクセン文化交流史研究——大学教育出版, 2005 (319.103/M)

会議

◆学外

- 19.9.5 平成19年度国立大学図書館協会シンポジウム
(西日本地区)
(於 大阪大学)
・若きライブラリアンの海外大学図書館研修
- 11.15～16
第43回日本医学図書館協会中国・四国地区総会
(於 島根大学医学部)
- 20.1.30～31
DRF 国際会議 2008
(於 大阪大学)
・アジア・環太平洋地域におけるオープンアクセスと機関リポジトリ
- 1.31 平成19年度国立図書館協会中国四国地区図書館協会事業委員会総会
(於 鳥取大学)
・活動報告、活動計画について
- 2.15 平成19年度目録システム/ILL システム講習会
担当者会議
(於 国立情報学研究所)
・平成19年度目録システム/ILL システム講習会開催報告、その他

研修

- 平成19年度学術情報リテラシー教育担当者研修
参加者 久磨由美子 (10.10～10.12)
- 平成19年度NAIST電子図書館学講座
参加者 竹下 啓行 (11.1～11.2)
- 平成19年度製本講習会
参加者 岡本 和子、犬飼恵美子、遠矢 厚志、田中 智子 (2.8)
- 平成19年度岡山大学個人情報保護教育研修
参加者 小花 洋一、大元 利彦、竹下 啓行、大園 隼彦、遠矢 厚志 (2.14)

編集委員会から

平成の世となり今年で20年を迎えました。昭和の大学生だった自身の頃と比べて現在の大学生のライフスタイル、学習スタイルも大きく様変わりしているように思われますが、図書館も昔ながらではなく、その時代時代に合わせて変化させていきます。

今にあった図書館をつかっていきたいと考えていますので、学生の方々からの様々な知恵をいただければと思っております。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.46 平成20年2月29日

発行人 小花洋一 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>